

感染対策の取り組み（細菌検査室の無い施設のために）

○霧島 正浩 （株式会社ビー・エム・エル 検査本部）

院内感染とは、1)医療施設において患者が原疾患とは別に新たに患った感染症、2)医療従事者等が医療施設内において感染した感染症のことである。院内感染は、人から人へ直接、又は医療器具等を媒介して発生する。特に、免疫力の低下した患者、未熟児、老人等の易感染患者は、通常の病原微生物のみならず、感染力の弱い微生物によっても、院内感染を起こす可能性がある。このため、院内感染防止対策は、個々の医療従事者ごとに対策を行うのではなく、医療施設全体として対策に取り組むことが必要である。

今回、細菌検査を外注している施設のための、BMLとしての院内感染の取り組みを紹介する。

- ① 院内感染勉強会…院内感染のポイントについて勉強会を実施。当社の勉強会の特徴は、基本的に施設毎に資料を作成。例えば、施設の中で困っている事を勉強会にて解説。又事前に手形のスタンプにて、施設内の手洗い状況の確認又手洗い場等の環境菌の検査を実施。その写真を取り入れる事で、より実践的な勉強会を行っている。
- ② 感染レポートの作成…特定菌一覧、病棟一覧、アンチバイオグラム等の資料作成。又細菌検査報告毎の特定菌一覧を、毎日配信。このレポートを使用頂く事により、接触感染菌のMRSAの動向を確認する事が出来ると同時に、手洗いの啓蒙活動にも役立てて頂く事が出来ます。又特定菌の病棟での広がりも確認出来、アウトブレイク予防にも活用頂けるツールとなります。
- ③ 細菌ウェブ報告…細菌検査のデータ及び統計的な処理が、ウェブにて対応が可能なシステムの提供。

- ④ 全国感受性データの提供…BMLは全国の細菌検体を約7,000件/日行っている。このデータを一年間まとめた、県単位での感受性状況を一年に一回発刊している。
- ⑤ 院内感染対策サーベイランス（JANIS:ジャニス）への対応…今年の保険改定により、感染対策加算Ⅰの施設は必須となりました。又今年より、200床未満の医療機関にも積極的な参加が勧められたJANISに対して、データ変換機構を構築。細菌検査外注施設に関しても積極的な参加を呼びかけている。
- ⑥ 遺伝子解析対応…パルスフィールドゲル電気泳動法（Pulsed-Field Gel Electrophoresis）。検出された複数の細菌の遺伝子に違いがあるか、ないかを調べるために用いられます。この検査は、BMLは全国で一番対応しています。このため、多くの経験値も含めて報告する事が出来ます。

以上当日は、実際の勉強会の内容をお伝えします。

資料請求先：0492-32-0409 検査本部 直通